

愛知県瀬戸市

瀬戸市立瀬戸養護学校

- 建築主 / 瀬戸市
- 所在地 / 〒489-0886 愛知県瀬戸市萩山台2丁目22番地
- 敷地面積 / 6,725㎡
- 建築面積 / 1,484㎡
- 延床面積 / 1,484㎡
- 構造・規模 / 鉄筋コンクリート造 3階建 1階部分
- 施工期間 / 平成20年6月～平成21年12月

肢体不自由		
学部	児童生徒数	クラス数
小学部	24 (15)	9 (5)
中学部	9 (4)	4 (2)
高等部	5 (1)	2 (1)
合計	38	—

※平成23年10月現在

計画に見られる指針改訂のポイント

- 特別支援学校の幼児児童生徒数の増加への対応
- 学習・生活空間の充実
- センターの機能の充実や地域交流への対応
- 情報環境の充実

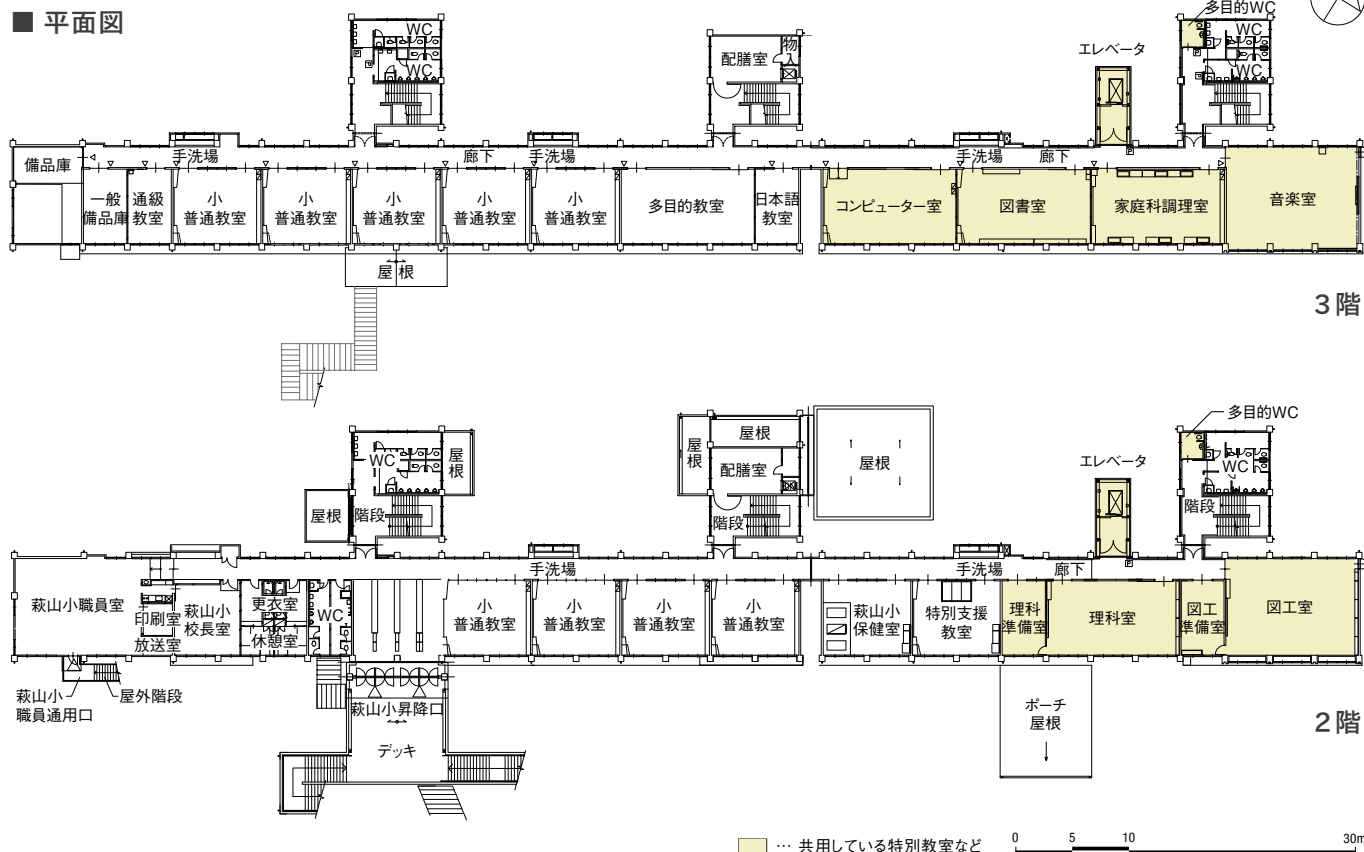
既存小学校との併置で
自然な交流が生まれる学び舎

瀬戸市立萩山小学校の校舎の1階と2、3階の一部を改修し肢体不自由特別支援学校として開校した。バリアフリー化や冷暖房の整備、エレベーターの設置など肢体不自由の児童生徒に必要な施設設備を整えた。小学校との共用施設である特別教室では、両校の児童生徒の自然な交流が生まれる。

同校は、「さくらんぼ学園」を愛称に、地域に愛される学校づくりを行っている。

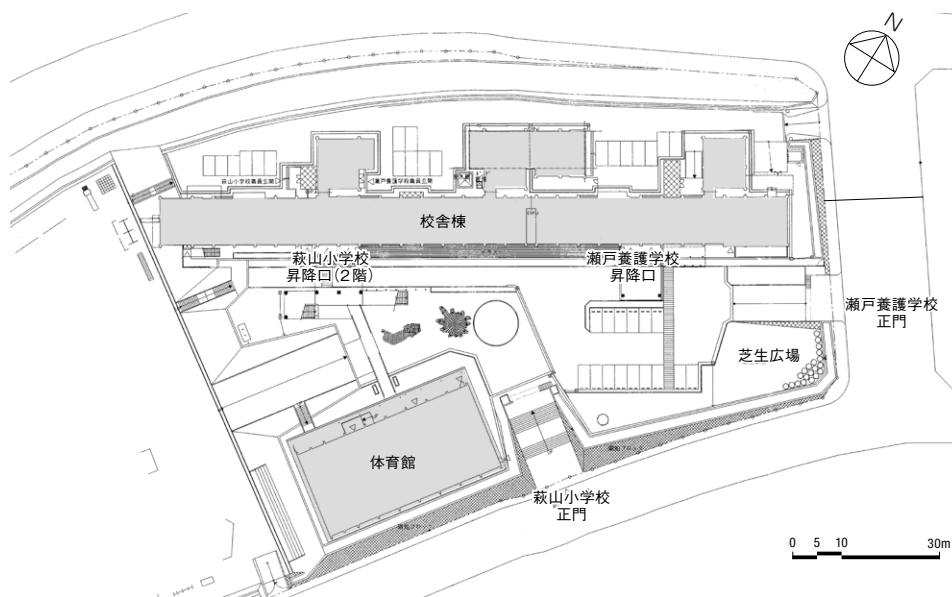


■ 平面図



特別支援学校の幼児児童生徒数の増加への対応

▶▶ 安全への配慮と特別教室の共有



① 瀬戸養護学校では、児童生徒を保護者が送迎するための車両の出入りが多い。このため、小学校の児童の安全に配慮し、別々の正門を設けている。



② 通用口には、瀬戸養護学校と萩山小学校が共に生きることをイメージしたシンボルマークが掲示されている。



③ 共用している家庭科調理室の調理台については昇降可能なものを一台導入している。



⑤ 小学校と特別教室を共有することで、児童生徒同士の交流が自然と育まれる。



④ 特別教室のドアは段差をなくすため吊り戸に改修し、バリアフリーに配慮している。

⑥ 音楽室の楽器や音楽家の写真など、小学校の日常風景を当たり前のように体験できることも、校舎を共用する利点と言える。



視覚障害
に対応した施設

聴覚障害
に対応した施設

知的障害
に対応した施設

肢体不自由
に対応した施設

病弱
に対応した施設

施設全体の特徴

瀬戸養護学校は少子化の影響で有効活用が検討されていた瀬戸市立萩山小学校の校舎の一部を改修し、同校との併置校として誕生した。

瀬戸養護学校が使用する1階部分は段差のあった水回り施設や教室、昇降

口など全面的な改修を実施した。2、3階部分は共用施設である特別教室など一部を改修している。

安全への配慮と特別教室の共有

瀬戸養護学校では、児童生徒を保護

者が送迎するため登下校時の車両の出入りが多い。このため、正門を別に設けることで、萩山小学校の児童の安全に配慮している(①)。

小学校との共用施設である家庭科調理室や理科室、音楽室などの特別教室は、バリアフリー対応とし、ドアは段差をなくすため吊り戸に改修している(④)。

センター的機能の充実や地域交流への対応

▶▶ 地域と連携した学校施設の有効活用



⑫ 専用の出入口がある多目的室では、地域と連携した日中一時支援事業が行われている。

情報環境の充実

▶▶ ICT 機器による視覚認知情報の活用



⑬ 60 インチの大型ディスプレイを授業で利用することで、言葉の指示だけでは理解が困難な児童生徒に対し、視覚情報で補完、理解を助ける。

センサー式の手洗い場は車いすの児童生徒が使用できるよう洗面台の下空間を広く取っている。また、給湯器を整備し、冬季にはお湯が利用できる。免疫力の弱い児童生徒の手洗い、うがい指導の一助となっている(⑧)。

トイレにはパネルヒーターが設置されており、体温調整が困難な児童生徒の排尿、排便の助けとなっている。児童生徒や介助者が応援を要する際、職員室につながる緊急呼び出し装置も設置している(⑨)。また、体格の大きな児童生徒のトイレ介助を行う教職員への

配慮として、電動昇降式ベッドを整備している。

地域と連携した学校施設の活用

専用の出入口がある多目的室では、放課後や土曜日に児童生徒を預かる日中一時支援事業を行っている(⑫)。運営は地域のNPO 法人が行い、仕事を持つ保護者だけでなく所用のため下校の時間までに迎えに来ることができないなどの事情にも対応している。

ICT 機器の活用で視覚に訴える

言葉による指示理解が困難な児童生徒のために、ICT 機器を活用した指導を行っている。60 インチの大型ディスプレイを用いることで、視覚による情報の補完を行い、児童生徒の理解向上に役立てている(⑬)。

学校から

萩山小学校の児童と本校の児童生徒は所属する学校こそ違うものの、同じ空間を共有することで、自然と「仲間」という意識が生まれているようです。

瀬戸養護学校の教室や長く伸びるウッドデッキは、小学校の児童と養護学校の児童生徒が日常的に触れ合う場所となっています。交流を通して普段とは違う一面を見せる児童生徒もいるなど、児童生徒同士の触れ合いは、周囲の大人にも気付きを与えてくれています。

検討委員会から

平成23年の「障害者基本法」の改正に伴い、「可能な限り障害のある児童生徒が障害のない児童生徒と共に教育を受けられるよう配慮すること」がうたわれた。本校の特色は、小学校との併置によって、可能性を伸ばす専門的な教育を受けつつ、小学校の児童との触れ合いを日常的に行える環境にある。ウッドデッキなどが効果的に整備され、児童生徒同士の交流を促している。

両校をイメージしたマスコットキャラクターは、共に生きることが、シンボル化され、校内表示として活用されている。やがては、地域に愛され、親しまれ、インクルーシブ社会のシンボルとなっていくだろう。併せて、時代の最先端に行く教育へのチャレンジにも期待したい。